

インドネシア語専攻とインドネシアの言語状況



海外交流

原 真由子*

The Indonesian Department and the Linguistic Situation in Indonesia

Key Words : Indonesian language, multilingualism, regional languages

1. インドネシア語専攻の教育

現在、外国語学部インドネシア語専攻では、1年生から4年生まで60人ほどの学生が在籍しています。各学年1クラスしかない小さな専攻語ですが、語学教育には大変適した条件です。1・2年生の前期課程では、週5コマの専攻語の授業があり、ほぼ毎日学生はインドネシア語を嫌でも(?)勉強しないといけません。インドネシア語は文字、発音、文法が比較的習得が容易であると言われ、それを期待してインドネシア語専攻を選ぶ学生も実際にいますが、言語によって難易度の差はあれ、どの言語も地道な日々の学習が不可欠です。3・4年生の後期課程に入ると、引き続きインドネシア語の運用能力を高めながら、インドネシアの文化・社会について学びます。インドネシアは、「多様性の中の統一」を国是の1つとしているように、インドネシア全体の国民文化を有しつつ、地域によって異なる多様な民族文化が存在します。学生には、十分なインドネシア語能力を基盤として、インドネシアの人々の文化社会の特徴について深く理解してほしいと願っています。

学生の側も、自発的に長期休暇にはインドネシアに旅行したり、半年から1年ほど現地の大学や語学学校に留学したりすることによって、インドネシア語やインドネシアの知識を増やすのはもちろんのこと、異国でのいろんな出会いや経験を経て人間的に

も成長します。最終的には、それぞれインドネシアに関わる研究テーマ・トピックを設定し、卒業論文を執筆します。

また、授業外の活動ですが、インドネシア語能力向上に大きな影響をあたえるものとして、インドネシア語劇があります。大阪外国語大学時代は学園祭である間谷祭のメインイベントとして、阪大となつてからは語劇祭として、多くの専攻語が参加しています。インドネシア語専攻では、途切れる年もありますが、2年生が中心となつて、役者はもちろん、衣装、字幕、音響、大道具、演出まですべて学生が行います。はじめは演技も台詞も正直ひどいものですが、やはり人に恥ずかしいものは見せられないという気持ちからか、本番までには驚くほど上手になります。特に発音とイントネーションが格段に良くなります。語劇は学生主導のイベントではありますが、非常に教育的効果の高い学習機会と言えるでしょう。

2. インドネシア語の成立

インドネシアは約2億3千万人(世界第4位)の人口をもつ、東南アジアの群島国家です。赤道にそつて東西に広がる5千キロメートルに渡る群島には約1万7千の島々が存在します。そこには、先述のように、島や地域によって異なる民族が住んでおり、したがって多様な文化社会が見られます。

インドネシア語は、インドネシア共和国の国語です。インドネシア語の起源は、マレー半島、スマトラ東岸などマラッカ海峡を挟む地方に分布したムラコ語と言われています。ムラコ語は7世紀末スマトラで興った仏教国家シュリーヴィジャヤ王国、ついで15世紀のイスラム国家マラッカ王国の言語となり、マレー半島、スマトラ島、ジャワ島、カリマンタン島などの沿岸地方を中心にリンガ・フランカとして



* Mayuko HARA

東京外国語大学大学院地域文化研究科博士後期課程
現在、大阪大学世界言語研究センター
アジア言語文化圏研究部門II 准教授
博士 社会言語学

群島各地に広まりました。20世紀に入り、オランダ植民地支配から脱却しようという民族主義運動が高まる中、1928年に宣言・採択された「青年の誓い」において、すでに広く用いられていたムラユ語が初めてインドネシア語と呼ばれ、統一言語とうたわれました。日本軍政期を経て、インドネシア共和国の独立後、インドネシア語が国語として憲法に定められ、インドネシア全土で国語の機能を果たすことになりました。独立当時のインドネシア語は国語としてはまだ不十分であり、またそれを読み書きできる人はそれほど多くありませんでしたが、インドネシア語の文法整備・綴り字法制定・用語整備といった言語政策によって標準化が促進され、インドネシア語の学校教育およびテレビ等のメディアの普及によって、いまや全国に十分浸透しています。また、インドネシア語の普及がある程度成功した要因には、インドネシア語が特定の民族のものではないという中立的な性質をもつ言語であることもあげられるでしょう。

なお、マレーシアの国語であるマレーシア語は、インドネシア語と同じようにムラユ語をルーツとしています。インドネシア語とはいわば“兄弟関係”にある言語であり、マレーシアでインドネシア語を用いても十分通じます。

3. インドネシア語の特徴

インドネシア語は学びやすい言語と言えます。文字はアルファベットで、基本的にはいわゆるローマ字読みで差し支えなく、発音も比較的容易です。文法では、単数形・複数形や女性形・男性形の区別、時制変化、格変化などの語形変化はありません。1つ例をあげます。

Saya tinggal di Jepang. (私は日本に住んでいます。)
私 住む ~で 日本

ここでは現在形として訳しましたが、「住んでいた」「住む予定だ」と訳す可能性もあります。動詞には時制変化がないので、時の判断は時相を表す助動詞や時を表す副詞、それが示されなければ文脈によります。

一方、インドネシア語に発達しているのは接辞による派生法です。つまり、基本的な語彙要素（語幹）の前後に接頭辞と接尾辞をつけることによって、別の意味の単語や別の品詞の単語を作ることができま

す。例えば、belajar（学ぶ）は動詞接頭辞 ber- + 語幹 ajar（“教える”）と分析することができます。この他に、同じ動詞でも、動詞接頭辞 meng- がつくことによって、mengajar（教える）という異なる意味の単語が形成されます。また、名詞接尾辞 -an がつくると ajaran（教え）という名詞になります。

また、インドネシアは、海を通じてヒンドゥー文化、イスラム文化、交易を通して入ってきた諸外国の文化、また植民地支配を受けた時代には宗主国オランダをはじめとする西欧諸国の文化による影響を受けており、その結果、インドネシア語語彙にはサンスクリット語、アラビア語、ポルトガル語、オランダ語などに由来する外来語が見られます。最近では英語、国内の地方語（後述）の語彙を多く取り入れています。

4. 多言語社会インドネシア

インドネシアの多様性は、言語においても認めることができます。インドネシア語は国語として全国的に使用されていますが、その他に地域や島ごとに異なる地域固有の言語が話されています。例えば、ジャワ島中部と東部ではジャワ語、ジャワ島西部ではスダ語、スマトラ島西部ではミナン語、スラウェシ島南部ではブギス語、カリマンタン島南部ではバンジャル語、バリ島ではバリ語が用いられています。これらのインドネシア語以外の言語は地方語と呼ばれ、その数は500とも700とも言われています。

一般には、それぞれの地方語が母語であり、国語インドネシア語は主に学校教育で習得する第二言語です。都市部においては、地方語を話すことのできないインドネシア語単一言語話者が増加しつつあるものの、大多数のインドネシアの人々は、自分の出身民族の地方語を母語として習得し、さらにインドネシア語を学校で身につける二言語話者です。概して、インドネシア語は役所、職場、学校などの公的な場で用いられ、一方地方語は家族や友人の間といった私的な場で用いられます。しかし、私的な場でも、話題が政治やビジネス、専門的な内容となるとインドネシア語に切り替わったり、インドネシア語と地方語が混ざったりするコード切り替え（コード混在）の現象が見られます。また、初対面で互いの出身民族がわからない場合にもインドネシア語が選ばれますが、同郷であるとわかった時にはすぐに地

方語に切り替わります。いろんな民族が行き交う場所では、いくつもの言語が聞こえてくることでしょう。

(最後の節のインドネシア語訳)

Keanekaragaman Indonesia bisa terdapat juga di bidang bahasa. Bahasa Indonesia sebagai bahasa nasional digunakan di seluruh Indonesia, sedangkan selain itu setiap daerah atau suku mempunyai bahasa tersendiri yang berbeda. Umpamanya, bahasa Jawa di daerah Jawa Tengah dan Jawa Timur, bahasa Sunda di daerah Jawa Barat, bahasa Minang di daerah Sumatra Barat, bahasa Bugis di daerah Sulawesi Selatan, bahasa Bali di pulau Bali, dan sebagainya. Bahasa-bahasa ini disebut bahasa daerah, yang jumlahnya dikatakan mencapai sekitar sebanyak 500 sampai 700.

Pada umumnya bagi kebanyakan masyarakat Indonesia bahasa daerah merupakan bahasa ibu,

sementara bahasa Indonesia merupakan bahasa kedua yang dikuasai lewat pendidikan sekolah. Secara garis besar bahasa Indonesia adalah bahasa resmi, yang dipakai di tempat formal seperti kantor dan sekolah, sedangkan bahasa daerah adalah bahasa rumah, yang dipakai untuk situasi informal seperti percakapan antara keluarga atau teman. Namun walaupun dalam percakapan informal, sering terjadi alih-kode dari bahasa daerah ke bahasa Indonesia atau campur kode di antaranya, kalau topiknya mengalih ke bidang yang bersifat modern seperti politik, bisnis dan sebagainya. Gejala alih-kode ini bisa juga dilihat dalam percakapan dengan lawan bicara yang belum dikenal, tetapi berasal dari satu daerah atau suku. Pada awal percakapan keduanya saling memakai bahasa Indonesia, akan tetapi setelah mengetahui mereka berasal dari daerah yang sama, langsung mulai menggunakan bahasa daerah mereka.

